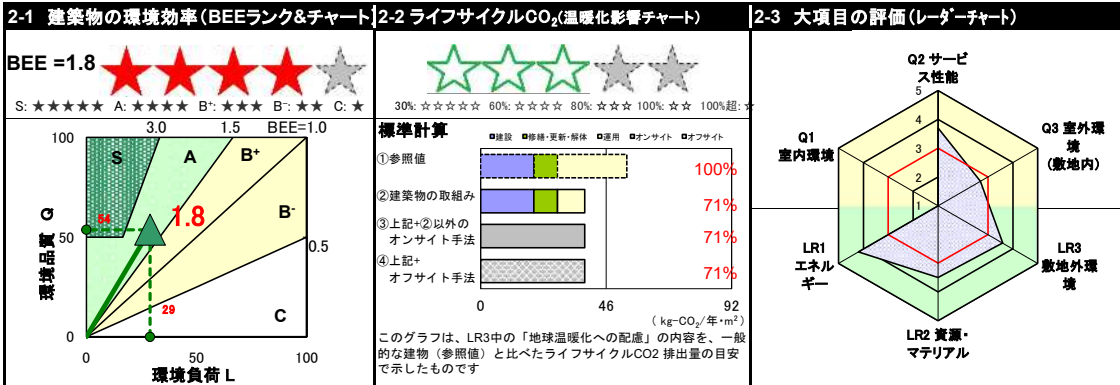
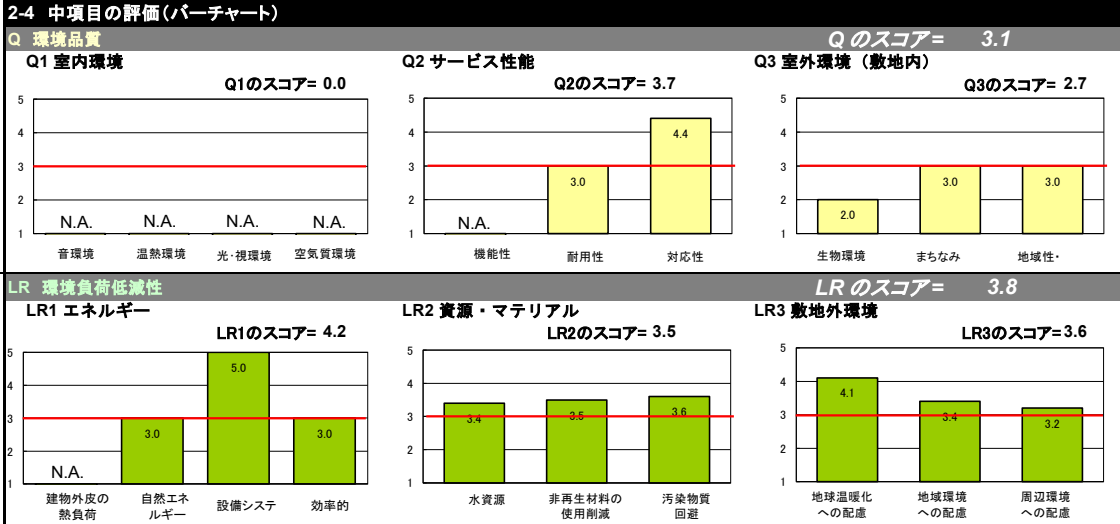


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)大福あまセンター	階数	地下0階地上1階
建設地	愛知県あま市石作中小路1番 ほか15筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	27 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,496 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年7月 予定	評価の実施日	2026年7月13日
敷地面積	11,146 m ²	作成者	瀬古 好美
建築面積	6,067 m ²	確認日	2026年7月13日
延床面積	6,057 m ²	確認者	瀬古 好美



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
4.1	2.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.6	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(株)大福あまセンター

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄					建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄					評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質															3.1	
Q1 室内環境																
1 音環境																
1.1 室内騒音レベル									3.0	-	-	-	-	-		
1.2 遮音									-	-	-	-	-	-		
1 開口部遮音性能									-	-	-	-	-	-		
2 界壁遮音性能									-	-	-	-	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									-	-	-	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									-	-	-	-	3.0	-		
1.3 吸音									-	-	-	-	3.0	-		
2 温熱環境									-	-	-	-	-	-		
2.1 室温制御									-	-	-	-	-	-		
1 室温									3.0	-	-	-	3.0	-		
2 外皮性能									3.0	-	-	-	3.0	-		
3 ゾーン別制御性									3.0	-	-	-	-	-		
2.2 湿度制御									3.0	-	-	-	3.0	-		
2.3 空調方式									3.0	-	-	-	3.0	-		
3 光・視環境									-	-	-	-	-	-		
3.1 昼光利用									-	-	-	-	-	-		
1 昼光率									3.0	-	-	-	3.0	-		
2 方位別開口									-	-	-	-	-	-		
3 昼光利用設備									3.0	-	-	-	3.0	-		
3.2 グレア対策									-	-	-	-	-	-		
1 昼光制御									5.0	-	-	-	3.0	-		
3.3 照度									3.0	-	-	-	3.0	-		
3.4 照明制御									3.0	-	-	-	3.0	-		
4 空気質環境									-	-	-	-	-	-		
4.1 発生源対策									-	-	-	-	-	-		
1 化学汚染物質									3.0	-	-	-	3.0	-		
4.2 換気									-	-	-	-	-	-		
1 換気量									3.0	-	-	-	3.0	-		
2 自然換気性能									3.0	-	-	-	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮									3.0	-	-	-	3.0	-		
4.3 運用管理									-	-	-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視									3.0	-	-	-	-	-		
2 喫煙の制御									3.0	-	-	-	-	-		
Q2 サービス性能									-	-	0.43	-	-	-	3.7	
1 機能性									-	-	-	-	-	-		
1.1 機能性・使いやすさ									-	-	-	-	-	-		
1 広さ・収納性									3.0	-	-	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応									3.0	-	-	-	3.0	-		
3 バリアフリー計画			独自						3.0	-	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性									-	-	-	-	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)									3.0	-	-	-	3.0	-		
2 リフレッシュスペース									3.0	-	-	-	-	-		
3 内装計画									3.0	-	-	-	-	-		
1.3 維持管理									-	-	-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計									3.0	-	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保									-	-	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性									0.5	3.0	0.52	-	-	-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振									0.4	3.0	0.48	-	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									3.0	3.0	0.80	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能									3.0	3.0	0.20	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数									0.3	3.2	0.33	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数									-	3.0	0.23	-	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔			②						-	3.0	0.23	-	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔									-	5.0	0.09	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									-	3.0	0.08	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									-	5.0	0.15	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔									-	2.0	0.23	-	-	-		
2.4 信頼性									0.1	2.8	0.19	-	-	-		
1 空調・換気設備									3.0	3.0	0.20	-	-	-		
2 給排水・衛生設備									3.0	2.0	0.20	-	-	-		
3 電気設備			②						3.0	3.0	0.20	-	-	-		
4 機械・配管支持方法									3.0	3.0	0.20	-	-	-		
5 通信・情報設備									3.0	3.0	0.20	-	-	-		

3 対応性・更新性				0.4	4.4	0.48					4.4
3.1 空間のゆとり			②		0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				高さ7.000m	-	5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率0.09	3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				20.000N/㎡	3.0	5.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.6	0.38			-	
1 空調配管の更新性					-	3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				ケーブルラック配線・露出配管	3.0	5.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				電線管	3.0	5.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保			消火ポンプ所は屋外計画	3.0	4.0	0.22			-		
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57		-	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④			3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30		-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-			-	-	3.8
LR1 エネルギー						-	0.40		-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	-	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.13		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.39	3.0	5.0	0.63		-	-	5.0
4 効率的運用					0.2	3.0	0.25		-	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価					-	-	-		-	-	
4.1 モニタリング					-	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制					-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30		-	-	3.5
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水				節水型便器	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.5	0.63		-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			② 独自	-	3.0	0.07		-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25		-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.21		-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				鉄鋼スラグCS-20:土間、舗装の路盤	3.0	3.0	0.21		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				躯体+塗装仕上、鉄骨ボルト接合	3.0	5.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22		-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	4.0	0.68		-	-	
1 消火剤					-	-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				発泡剤を用いた断熱材を使用していない	-	5.0	0.50		-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30		-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率71%	-	4.1	0.33		-	-	4.1
2 地域環境への配慮					0.3	3.4	0.33		-	-	3.4
2.1 大気汚染防止				燃焼機器を使用していない	-	5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.7	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制			独自	駐車場の確保、出入口の安全対策	-	4.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33		-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00		-	-	
2 振動			独自		-	-	-		-	-	
3 悪臭					-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制					-	1.0	-		-	-	
3 日照阻害の抑制					-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策				専門家による検討体制のほか過半を満たしている	-	5.0	0.70		-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート
(株)大福あまセンター

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	3.6
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化：22.2%/建物緑化：0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (株)大福あまセンター

計画上の配慮事項	
総合	地球環境負荷の低減に取り組んだ。
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	ゆとりある空間とし、フレキシビリティ性の向上に配慮した。 耐震性は建築基準法に定められた耐震性を有するものとした。
Q3 室外環境(敷地内)	建物外部には視線を遮るような樹木を配置しない等、防犯性に配慮した。 緑地水平投影面積率9.9%を確保し、舗装面積率を35.3%とした。
LR1 エネルギー	高効率な照明器具を採用し、エネルギーの削減を図った。
LR2 資源・マテリアル	鉄骨現し部の仕上を塗装とする等、部材の再利用可能性の向上に配慮した。 露出配線・配管とする等、構造部材・仕上材を痛めることなく修繕・更新が可能とした。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用せず、大気汚染防止に取り組んだ。
その他	特になし。